

令和元年 佐世保市観光の概況（1月～12月）

令和元年は、国全体では、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催を契機とした訪日需要の高まりや、東アジア市場での航空便の新規就航・増便などもあり、韓国市場の減速はあったものの、年間の訪日外国人観光客数は3,188万人、前年比2.2%増と7年連続で過去最高を記録した。

佐世保市においては、佐世保の発展の礎となった「佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港130年」という記念すべき年であったことから、鎮守府関連（日本遺産）を中心とした観光PRや「黒島の集落」（世界文化遺産）を舞台とした集客イベントの実施、世界で最も美しい湾「九十九島」の訴求に継続して取り組むなど、本市特有の観光コンテンツを積極的に活用したプロモーションの強化と誘客活動を行った。

また、インバウンド関連では、1月の香港⇄長崎間のLCC定期便の新規就航を契機に、香港での観光プロモーションを強化したことで来訪者が増加した。また、中国・上海や台湾での観光情報説明会の開催や誘致セールスを実施するなど、東アジアを中心とした誘客対策に継続して取り組んだ。

クルーズ船については、全国的な傾向として、中国市場の急拡大後の調整局面から配船量の減少がみられ、本市への寄港数も前年を下回った。

観光客の動向は、夏休み期間や週末など繁忙期の荒天や、大規模台風の接近・上陸など天候不順が続く日が多かった事などが大きく影響し、観光客数で582万4千人（対前年96.9%、18万8千人減）、宿泊客数も153万3千人（対前年98.4%、2万5千人減）という結果となった。

令和元年度 重点事業について（4月～3月）

1 日本版DMOとしての機能構築と観光地域づくり

（1）「海風の国」佐世保・小値賀の観光地域づくりの推進

佐世保市を代表する観光コンテンツであるハウステンボスや九十九島を起点に、地域周遊、滞在時間の延長につなげるため、各地域の特性や特色を活かした観光資源の磨き上げを行い、地域全体のブランドづくり、観光客の多様なニーズに対応した取り組みを行った。

特に、地域ならではの観光資源の磨き上げとして、圏域内の地域住民や団体が推進する地域活性化の取り組みへの支援や、観光人材の育成として、外国人観光客を対象としたガイドの育成及び外国語対応のまち歩き商品など滞在プログラムの造成を行った。

また、観光立市として将来に渡って観光地域づくりの推進やおもてなしの心の醸成を地域住民まで浸透出来るよう、地域の子供たちを対象とした勉強会の開催や地域の歴史を学ぶツールを制作し配布するなど、観光に触れる取り組みを行った。

(2) ワーキンググループ機能の充実

観光地域づくりやブランディングの推進を目的に官民・業種を越えた連携、協働事業を行うワーキンググループでは、交通事業者を中心に本土と離島を結んだ「海風の国」を感じることができる滞在型旅行商品の造成や、生産者や飲食店などの事業者と一緒に“地域ならではの食”をテーマにしたおもてなし受入整備の取り組みに着手した。

2 観光客誘致とプロモーション

(1) 国内誘致・プロモーション

九州観光推進機構及び長崎県との連携により、大都市圏を主とした旅行エージェント等への旅行商品造成を促すセールス活動や、市内の観光・宿泊施設などの事業者との協同で、本市への宿泊を伴う教育旅行及び九州大会規模のコンベンションの誘致活動を行った。

特に教育旅行では、新しい取り組みとして、国際社会共通の目標「持続可能な開発目標SDGs（エスディーゼズ）」をテーマに、生徒が能動的に学ぶことができるような学習方法「アクティブラーニング」を取り入れた体験プログラムの開発に着手した。

宣伝活動については、世界で最も美しい湾「九十九島」、日本遺産「鎮守府関連」、世界文化遺産「黒島の集落」の素材を中心に、各種メディアへの情報発信及び取材対応、公式SNSでの情報発信などのプロモーション活動や、ハウステンボスなど民間事業者とも連携し、旅行雑誌等への掲出や観光情報サイト・SNSなどのWEB活用、交通広告など各種広告媒体の特性を捉えたメディアミックスを心がけて広告宣伝を行った。

(2) 海外誘致・プロモーション

FIT化が加速している東アジアを中心とした訪日観光客の誘致を促進するため、香港・台湾向けの繁体字のフェイスブックの発信強化に加え、新たに英語圏や中国(簡体字)、韓国(ハングル文字)のフェイスブック、インスタグラム、ウェイボーなど公式SNSを開設し観光情報発信をスタートした。特に、平成31年1月に長崎直行便が就航した香港を最重点地域として、FITを対象とした二次交通手段を紹介するツールの制作や現地の訪日観光情報サイトへの発信、ユーチューバー、インフルエンサーを活用したWEBプロモーションなど集中的な情報発信を行った。

3 自主財源の確保と自主事業の展開

当協会は公益財団法人として、主に行政からの補助支援による「公益目的事業」を中心とした事業展開を図っているところであるが、より安定した事業運営を行うためにも、観光客の利便性、満足度の向上を目的とした観光に寄与する以下の自主事業を積極的に展開した。

- ・募集型企画旅行（ウォーキングツアーなど着地型商品の開発、既存商品のリニューアル）
- ・手配旅行（大会運営にかかる会議や宿泊の手配など／みちづくし in 佐世保、海事振興連盟）
- ・観光バス事業（クルーズバス海風）
- ・自社商品（ハウステンボス&海きららセット券など）、受託商品販売（軍港クルーズなど）
- ・ふるさと納税事業（佐世保市内宿泊券など）

■佐世保観光コンベンション協会 令和元年実績

(1) 佐世保指目標

項目	年	単位	R1 実績	H30 年実績	前年比
① 観光客数		人	5,824,354	6,012,868	96.9%
② 旅行消費額		百万円	86,205	95,699	90.1%

(2) DMO指標 ※ () 内、外国人

項目	年	単位	R1 実績	H30 年実績	前年比
① 宿泊消費単価		円	38,744 (38,500)	40,646 (42,500)	95.3% (90.6%)
② 延べ宿泊者数		千人	1,845 (168)	1,898 (178)	97.2% (94.4%)
③ 来訪者満足度		%	89.4	88.5	101.0%
④ リピーター率		%	58.4	61.4	95.1%

※ (2) -④リピーター率は、2回以上来訪者数の合計（無回答除く）

(3) その他の指標

項目	年	単位	R1 実績	H30 年実績	前年比
① 宿泊施設の稼働率		%	49.0	50.5	97.0%
② WEBサイトアクセス数		PV	1,638,844	1,727,454	94.9%
③ 観光素材認知度		%	62.2	62.5	99.5%

※ (3) -①宿泊施設稼働率は、定員比

※ (3) -②WEBサイトアクセス数は、ページビュー

※ (3) -③観光素材認知度＝九十九島の認知度

※ (3) -②・③は、年度（4月～翌3月）の数